

八月十日

五年

天保山並和田岬燈臺落成

工部省届 五年八月十日

天保山并和田岬燈臺本器械落成ニ付御届申候尤別紙譯文ノ通外國公使ヘハ外務省ヨリ布告ニ及ヒ諸省府縣等ヘハ當省ヨリ相達申候此段申進候也 八月十日

工部省布達

航海者ヘ布告

天保山燈臺

一日本政府布告ス天保山燈臺ニ於テ第四等燈明ヲ設ケ明治五年八月二十九日 西曆一千八百七十二年第十月一日ノ夜ヲ

始トシ爾後毎夜日没ヨリ日出マテ點燈ス尤明治四年四月 西曆一千八百七十一年第六月以來點燈セル假燈明ハ前同夜

ヨリ廢止ス

一燈臺ノ位置并燈明ノ光景ハ左ニ詳記スル者ナリ

明治五年七月廿三日西曆千八百七十二年第八月廿六日

工部省分局横濱辨天燈臺寮工部省三等出仕兼燈臺頭佐野常民

一天保山燈臺ハ攝津國安治川口天保山砲臺ノ西北  
 端ニ建置ス此地ハ北緯三十四度四十分ニテ英國ク  
 リーニッテヨリ東經百三十五度二十七分ニ當ル  
 一燈臺ハ白色四角木造ニテ燈籠ノ中央マテ高サ三  
 丈ナリ

一燈明ハ不動白色曲射ニシテ海面三百度即千北六  
 十三度東ヨリ北西ヲ廻リ南五十七度東迄ノ方位ヲ  
 照輝シ其他ハ蔽陰ス但右ハ真方位ナリ  
 一燈火ノ高海面ヨリ五丈三尺ニシテ其光線凡十二

里 海里ニ達ス 兼造方補員ス テルリングフェイスシエ  
 航海者へ布告

和田岬燈臺

一日本政府布告ス和田岬燈臺ニ於テ第四等燈明ヲ  
 設ケ明治五年八月廿九日 西曆千八百七十  
二年第十月一日ノ夜ヲ始  
 トシ爾後毎夜日没ヨリ日出マテ點燈ス尤明治四年  
 四月 西曆千八百七十  
一年第六月七日已來點照セル假燈明ハ前同夜ヨ  
 リ廢止ス

一燈臺ノ位置并燈明ノ光景ハ左ニ詳記スル者ナリ  
 明治五年七月廿三日西曆千八百七十二年第八月二十六日

工部省分局横濱辨天燈臺寮工部省三等出仕兼燈臺頭佐野常民

一和田岬燈臺ハ攝津國兵庫港和田岬ノ極東側ニ建  
 置ス此地ハ北緯三十四度四十分ニシテ英國グリ

ニテヨリ東経百三十五度十二分ニ當ル  
一燈臺ハ白色八角木造ニテ燈菴ノ中央マテ高四丈  
六尺ナリ

一燈明ハ不動赤色曲射ニシテ海面二百七十五度即  
チ南六十八度西ヨリ東南ヲ廻リ北二十七度西迄ノ  
方位ヲ照輝シ其他ハ蔽陰ス但右ハ真方位ナリ

一燈火ハ高海面ヨリ五丈二尺ニシテ其光線凡十二  
里海里ニ達ス兼造方補員ステルリング、フェイスシエル

工部省布達

天保山并和田岬燈臺本器械落成ニ付位置方向別紙  
之通ニ候間為心得此段相達候也  
○五年八月十日  
○別紙前ニ出

大政類典

Table with multiple vertical columns, currently blank.

編

五月廿九日

七年

兵庫縣一達 七年九月二十九日

十三

其縣管下攝津國和田岬燈臺敷地五百六十五坪七合五  
勺除稅地トシテ工部省一可引渡此旨相達候事 工部

内務大藏兩省一達 七年九月二十九日

兵庫縣管下攝津國和田岬燈臺敷地ノ儀別紙ノ通同縣  
一相達候條此旨可相心得事 工部

工部省伺 七年九月二十九日

攝州和田岬燈臺地所ノ儀明治三庚午年九月燈臺建  
築ノ節概數ヲ以テ受取置候ニ付昨年中實測致候處  
別紙圖面ノ通五百六拾五坪七合七勺有之候ニ付今  
般更ニ除稅地ニ受取度旨内務省一打合々候處差支  
無之旨回答有之候間至急御渡相成候様致度仍テ圖

十三 大政類典

付箋

加  
正  
類  
冊

面相添此段相伺候也  
五月十八日  
工部  
伺之趣聞届候條兵庫縣コリ可受取事  
五月廿九日

庶務課議按

工部省伺攝州和田岬燈臺地處實測ノ上五百六拾五坪七合七夕更ニ除稅地トシテ受取度旨右ハ内務省打合濟ノ趣ニ付御許可相成可然仍御指令御達按共相伺申候  
五月廿二日  
工部

兵庫縣届  
七年六月二十日

當縣下攝津國和田崎燈臺敷地五百六拾五坪七合七夕除稅地トシテ工部省ハ可引渡旨御達ニ付右地一所本月十八日同省ハ引渡申候此段御届申上候也  
六月二十日  
縣

太政領典

大正  
西  
類  
期

目 指 合 意

七月十九日

也

五月十八日  
工部

付之趣聞在候條兵庫縣より可受取事 五月廿九日

庶務課議按

工部省伺攝州和田岬燈臺地處實測ノ上五百六拾五坪七合七夕更ニ除稅地トシテ受取度旨右ハ内務省打合濟ノ趣ニ付御許可相成可然仍御指令御達按共相伺申候  
五月廿二日  
工部

兵庫縣届

七月十九日

當縣下攝津國和田崎燈臺敷地五百六拾五坪七合七夕除稅地トシテ工部省へ可引渡旨御達ニ付右地所本月十八日同省へ引渡申候此段御届申上候也  
六月  
十九日